

ヒカルのオセロ

桂かすが

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

佐為さんにオセロをやらせてみた

目次

ヒカルのオセロ

1

ヒカルのオセロ

ヒカルがオセロをやろうと言ってきた。見ると碁盤のような盤と駒を使う。興味が
出たのでやってみる。

案外奥が深い。最初はヒカルとほぼ互角。だが、すぐにコツを掴み強くなった。
ネットのオセロもやってみる。碁よりは単純なゲームだ。すぐに頭角を表した。
だがあるとき「オセロでは人間は機械には勝てない」という話を聞く。

ヒカルに頼み込んでその機械とやらを手に入れてもらった。確かに強い。

碁もほとんど打たず、毎日機械とオセロを打ち続けた。強い。とても強い。碁では滅
多味わえなかつた強敵との戦いにハマった。

数ヶ月、とうとう機械に勝った！機械との勝負も続けたが、またネットのオセロもや
りだした。

連戦連勝。誰もかなわなかつた。ある日誰かが言い出した。

「これ新しいソフトじゃねーの？」

「そうだね。こんなに強いとかありえないね」

「こっちもソフト用意してぶつけてみようか」

「いい考えだ」

だがそれも倒した。

「新しいソフトに違いがない。どこかの大学の大型コンピューターでも使ってるんじゃないの?」

反論する。

「違いますよ!ちゃんと打ってるんです」

「じゃあ今度オセロの大会があるから出てこいよ。目の前で打ったら信用するよ」

「それは……」

「できないの?やっぱりずるしてるんだ」

「ぐぬぬ」

そのあとはヒカルに代打ちを頼んで大会で優勝したり、世界大会でも優勝したり、新しいソフトの挑戦を受けたり色々あった。

ある日、ヒカルが言った。

「佐為、囲碁は?神の一手を目指すって言ってなかった?」

「あっ」

すっかり忘れてた……

その後、少し回り道をしたものの、ヒカルは碁のプロになり佐為は成仏しましたとき。